

出題傾向

大問8題、小問45問で、すべて4つの選択肢から正解を1つ選ぶ選択式の問題となっている。構成は、会話文問題1題（小問10問、A・Bの2つの会話文にそれぞれ5問ずつ）整序英作文問題1題（小問5問）、中文空所補充問題1題（小問5問）、文法・語法問題2題（それぞれ小問5問）、語彙問題1題（小問5問）、中文読解問題1題（小問5問）、長文読解問題1題（小問5問）である。

小問では、中文・長文問題がその他の問題よりも少ないが、文章量が多く、説明文であるため飛ばし読みができないので、英文をすばやく読む力も必要となってくる。全体的な難易度は難しくはないが、試験時間内に問題を正確に解き終えるためには、すばやい英語運用能力も必要である。

学習アドバイス

各問題形式に対するさらに細かい分析をした上で、その対策を考えていこう。

●会話文問題

大問1つに、A、Bに分かれたある程度の分量の会話文が用意されている。それぞれ、文中の空所に適した英文を選択する問題3問と、内容に関する英問に答える問題2問が用意されている。会話文の内容は教科書レベルであるが、文章中に似たような情報が複数入っていることもあり、注意が必要だ。会話の基本である「発話→応答」をきちんとおさえつつ、混乱しがちな情報は整理しておくとうまいだろう。

対策としては、会話の授業などで「発話→応答」をいつも気にすることに加えて、会話特有の表現もメモして覚えるよう努めると良い。教科書に付随する音声には、会話の素材も必ず入っているため、それを活用することも有効な対策となる。

●文法・語法・語彙・整序英作文問題

いわゆる文法分野の問題が大問数にして4つあり、全体的に正確な英語運用能力が試されている。整序英作文問題は英文中に用意された4つの選択肢を並び替え、指定の箇所の選択肢を答える形式である。難しい文法事項や語彙が使われていないため、比較的解答しやすい。文法・語法問題は、英文に対する日本語訳が与えられている大問と、日本語訳の無い大問が1つずつ用意されている。前者は、語句の意味や、文法から解釈できる意味を考えさせる問題で、後者は純粋な文法力を試す問題である。いずれも、教科書を一通り理解して、きちんと演習を積んでおく必要のある難易度である。語彙の問題は、教科書レベルの熟語・イディオムに関する問題で、教科書や単語集に載っているものをきちんと覚えておけば良い。

対策としては、「品詞とその使い方」「5つの文型と品詞の対応」について不確かなことがあれば、必ず文法参考書をしっかり読んで理解することから始める。その後、文法力に自信があれば、入試標準レベルの文法問題集を、自信が無ければ、英検準2級の文法問題集を一通りやってみよう。同時に、教科書や文法のテキストに載っている並べかえ問題もやりつつ、熟語やイディオムに出会ったら、その都度書き出して自分だけの熟語・イディオム集を作ると良い。その後は、自信がつかまで同じ問題集で演習を繰り返してい、できれば2・3冊は学習し終えたい。地道な努力で文法を理解して身につけることが大切である。

●中文空所補充問題、中文・長文読解問題

中文空所補充問題では、300～400語程度の英文が題材として使われており、文章中の5つの空所に適語を選ぶ形式である。語彙のレベルは高くはないが、文脈を丁寧に読まなければ正解を絞り込めないで、注意が必要だ。中文読解問題では、A、Bの2つの文章が用意されていて、題材としてそれぞれ100語前後の英文が使われている。Aには2つの、Bには3つの空所が用意され、文章の内容に合う選択肢を選ぶ問題となっている。単語ではなく、熟語やイディオムが用いられたものが多いため、内容をつかんでいけば比較的答えやすい。長文読解問題では、600～700語程度の英文を題材にして、内容に関する英問英答の問題が4問と、内容に一致する日本語で書かれた選択肢を選ぶ問題が1問用意されている。分量が多いため、内容をつかむのに時間がかかるが、内容をつかんでしまえば、比較的解答しやすい問題がほとんどである。

対策としては、日ごろ使っているテキストの課題文を読んで、知らない単語があったり、読み返しても内容があまり理解できないようなことがあれば、その克服から始めよう。まず、文章の語数の50分の1程度を制限時間（分）にし、その時間内に読み終えるように努める。その後、わからなかった語句を辞書で引き、意味を覚える。今まで学習してきた課題文に対して行うだけでも、英文を読むための結構な体力がつくだろう。その後、制限時間の設けてある入試標準レベルの問題集を1冊用意し、時間内に解答し、解説を丁寧に読んで理解してみる。それを繰り返す一方で、高校生用の週刊英字新聞などを購読し、1週間かけてざっと目を通す練習を重ねよう。文法分野に重点が置かれた問題形式とはいえ、読解分野の小問から考えても、全体の配点に占めるウエイトは大きいはずだ。教科書や英字新聞などには、たいいてい音声がついているので、それを聞きつつ読むと、読む速度も早くなるので、やってみると良い。

今までの学習やその題材を最大限活かしつつ、地道に学習を進める姿勢は、進学後も自分の支えとなる。合格を勝ち取り、進学後も活躍するための力となってくれるだろう。